

# 教科「情報」の観点別学習状況の評価について

## e-Portfolio システムを用いた試み

関西大学初等部 田邊 則彦

「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点から生徒を評価し、それを指導の改善につなげていこうという「指導と評価の一体化」は、高校段階においてはさほど定着していない。新学習指導要領でもその必要性がうたわれている「観点別学習状況の評価」を、現行の教科「情報C」の中で行うにあたり、e-Portfolio システムを導入した。その実践の中から見えてきた問題点を指摘する。

### はじめに

高等学校新学習指導要領の共通教科「情報」においては、次の四つの大きな目標が示されている。

表1 共通教科「情報」の目標

①情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させる。
②情報に関する科学的な見方や考え方を養う。
③社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させる。
④社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を①、②、③を通じて育てる。

これらの目標に照らしてその実現状況を見る評価（目標に準拠した評価）を重視し、観点別学習状況の評価を基本として、生徒の学習の到達度を適切に評価し、学習指導の改善につなげていくことが求められている。

現行学習指導要領における「情報C」の「情報化の進展と社会への影響」を学習展開する単元において、社会で利用されているさまざまな情報システムについて、それらの種類と特性、情報システムの信頼性を高める工夫などを理解させ、情報化が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる学習活動を設定し、高校1年生123名に対してe-Portfolioを用いて観点別学習状況の評価を実施した。

### 設定した学習活動

単元に設定した4つの学習活動を示す。

- 1 近未来の学校における情報システムについての考察
  - 2 情報システムの利用に関するマナーとルールについて
  - 3 インターネット利用に関する理解度チェック
  - 4 ソーシャルメディアに関するレポート
- これらの学習活動に対して、以下の学習目標を立

てた。

表2 単元目標

社会の情報化が人々の生活に果たす役割や及ぼす影響について理解させ、情報社会を構築する上での個人や組織の役割を考えさせる。
情報社会の安全とそれを支える情報技術の活用を理解させ、情報社会の安全性を高めるために個人が果たすべき役割と責任について考えさせる。
情報技術の進展が社会に果たす役割と及ぼす影響を理解させ、情報技術を社会の発展に役立てようとする態度を育成する。

### 設定した観点別評価規準

観点別評価基準は、国立教育政策研究所教育課程研究センターがまとめた『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校共通教科「情報」）』をもとに以下のように設定した。(1)

表3 観点別評価規準

観点	評価規準
関心 意欲 態度	社会の情報化や情報技術の役割や影響及び情報社会の安全に関心をもち、情報社会における人間関係を構築するために、ルールやマナー、情報モラルに配慮して、情報技術を社会の発展に役立てようとしている。
思考 判断 表現	社会の発展やよりよい人間関係を構築するために、情報技術をどのように活用していくべきかを考察し判断している。また、情報技術の進展が社会に果たす役割や社会や人間に与える影響を考え、その結果を適切に表現している。
技能	情報社会の安全や発展において情報技術が果たしている役割や情報モラルを踏まえ、情報技術を活用して、情報社会での共同作業を行うことができる。
知識 理解	情報技術の進展が社会や人間の生活にどのような恩恵や影響を与えているかを理解し、情報社

<p>会の安全や発展において情報技術が果たしている役割と、問題点に対する適切な対処方法や考え方を身につけている。</p>
--

## 採用した e-Portfolio システム

学習評価は、生徒・教員・保護者が学習目標に照らしてその実現状況を把握し、学習指導の改善と表裏一体となつて、学びの PDCA サイクルを実現することが求められている。きめの細かい学習指導と生徒一人ひとりの学びの確実な定着を図るため、生徒の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価を、日常の授業においても適切に実施するために、本実践では、オーストラリアで稼働している e-Portfolio システムを導入した。

e-Portfolio は、学習の履歴や成果物を電子情報として保存/整理しながら蓄積し、自らの学びを振り返るとともに、教員や他の学習者と意見交換したり、相互評価することによって、学びに深まりをもたらす、自立した学習者を育む学習支援ツールである。学習結果の到達点を測る評価ではなく、学習の進み具合を捉え、次の段階に進むために、今やっていることをどう変えたらよいかを判断するための評価を学習の進行に合わせて行う。

導入した e-Portfolio システムには、学習過程の記録と学習成果の蓄積機能、学習状況の評価機能、生徒・教員・保護者のコミュニティ形成機能が備わっている。

各学習活動に対する評価ルーブリックを定義することも可能で、学習活動に適した評価を実施することができる。生徒や保護者にとっては Learning Portfolio として機能し、教員にとっては Teaching Portfolio として機能する。

表 4 e-Portfolio システム導入のねらい

<p>学習成果物や学習履歴の蓄積を行うだけでなく、蓄積したデータを一元管理し、学習者の理解の程度や思考過程を可視化する</p>
<p>評価を学習の一部として埋め込み、「真正な学習・真正な評価」を実現する</p>
<p>評価と指導の一体化を目指した情報蓄積を行い、学びの PDCA サイクルを展開する</p>

## 授業準備から評価までの流れ

e-Portfolio システムを導入したことによる授業準備から評価・指導の流れの大きな変化はなく、従来の手順と同等である。むしろ情報の共有化という点では、教科間や教員間での情報共有を促進

することによって、効率的な運用につながることを期待される。単元設定から評価までの流れを示す。

- 単元の設定
- 学習活動の定義
- 学習活動の展開
- 学習過程・学習成果物の蓄積
- 学習活動の評価とフィードバック
- 単元の評価とフィードバック

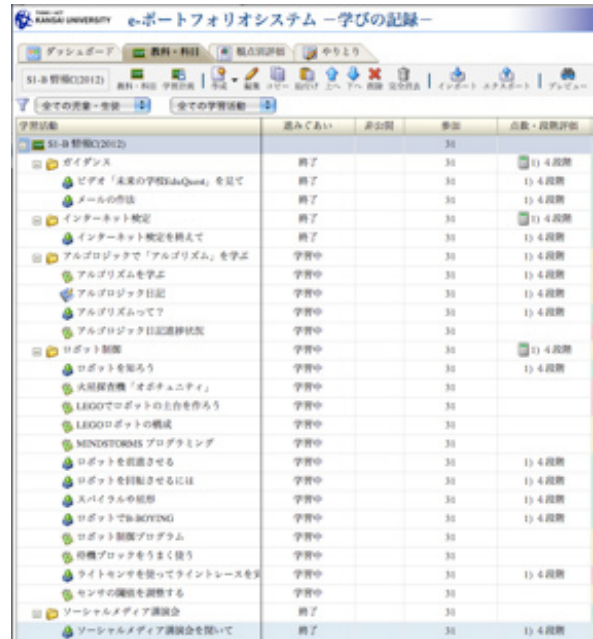


図 1 単元と学習活動の構成

具体的な学習活動と評価、観点別学習状況の評価に関しては、発表時に整理したものを示す。

## 今後の課題

- ◎すべての学習活動で「観点別学習状況の評価」を行うことは、教員の負担が大きく、現実的ではない。単元単位での導入が妥当
- ◎各学習活動に対する評価ルーブリックを策定する必要がある
- ◎セキュアな環境を提供することが前提となり、教育クラウドでの展開が望まれる
- ◎学習状況の可視化を的確に進める必要がある
- ◎カリキュラムマッピングを実施し、教科間及び学年間、さらに校種間での学習内容の関係性を整理する必要がある
- ◎アナログデータの取り込みを支援する仕組みが不可欠

## 引用・参考サイト

- (1) 評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校共通教科「情報」）  
[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/13\\_kou\\_zyouhou.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/13_kou_zyouhou.pdf)